

くものいと No. 44

KUMO NO ITO

March 2011

関西クモ研究会

くものいと

No. 44, March 2011

- | | | |
|----|---------------------|---------------|
| 1 | 奄美大島のクモ I | 吉田 真 |
| 14 | 長野県西駒ヶ岳のクモ | 西本裕・上田秀義・平山征彦 |
| 15 | 京都市でマルゴミグモの生息を確認 | 平松毅久 |
| 16 | オーストラリア・ブリスベン訪問記 | 関根幹夫 |
| 17 | クモの名前クイズ | |
| 18 | 長崎・【西海市】檜浦郷訪問記 | 関根幹夫 |
| 21 | クモの名前クイズのヒント | |
| 22 | クモの夢 | 船曳和代 |
| 24 | 関西クモ研究会 採集会の記録 | |
| 28 | 関西クモ研究会 2010年度例会の記録 | |
| 29 | クモの名前クイズの解答 | |
| 30 | 関西クモ研究会 2009年度会計報告 | |
| 31 | 関西クモ研究会 会費納入のお願い | |
| 32 | 編集後記 | |

奄美大島のクモ I

吉田 真

2008 年 3 月に奄美大島を訪れ、奄美市住用町のいくつかの地点で、15 日から 17 日まで、ビーティングとシフティングで採集を行った。

奄美市在住の三島照さんには、奄美大島の地理や交通アクセスについてのさまざまな情報を教えていただいた。また、田中穂積さん、池田博明さん、小野展嗣さん、斎藤博さん、谷川明男さん、加村隆英さん、吉田哉さんにはクモの同定でお世話になった。謹んで御礼申し上げます。

各地点で採集されたクモは以下のとおりである。数字は個体数、♂：オス成体、♀：メス成体、♂y：オスの幼体、y：幼体を表す。

摺勝林道

ヒメグモ科

アマミミジングモ	♂1
ミナミオダカグモ	y1
ヒメグモ科の一種	y1

コツブグモ科

<i>Mysmenella</i> sp.	♀1
-----------------------	----

サラグモ科

ムネグロサラグモ	♂3, ♀1, y1
<i>Bathyphantes</i> sp.	♀1
<i>Hypselistes</i> sp.	♀1
サラグモ科の一種	y1

アシナガグモ科

アシナガグモ	♂y1, y1
イリオモテアシナガグモ	♂1
<i>Tetragnatha</i> sp.	y1
<i>Leucauge</i> sp.	y6

コガネグモ科

チュラオニグモ	y1
<i>Cyclosa</i> sp.	y3
<i>Eriophora</i> sp.	y1
<i>Neoscona</i> sp.	y1

コモリグモ科

イリオモテコモリグモ	♀1, y1
ナミコモリグモ	♂4
コモリグモ科の一種	y1

キシダグモ科

キシダグモ科の一種	y3
-----------	----

コマチグモ科

<i>Chiracanthium</i> sp.	♂1, ♀2
--------------------------	--------

カニグモ科

ダイダイエビスグモ	y3
ドウナガカニグモ	♂y1

ハエトリグモ科

<i>Mendoza</i> sp.	y1
<i>Synagelides</i> sp.	y1
ハエトリグモ科の一種	y11

摺勝山林

ヒメグモ科

クロホシミジングモ	♂2
ヒシガタグモ	y1
ヤエヤマヒシガタグモ	♂1, ♀1, ♂y1, y2
リュウキュウツクネグモ	♀1
<i>Enoplognatha</i> sp.	y1
<i>Rhomphaea</i> sp.	y1
ヒメグモ科の一種	y3

サラグモ科

サラグモ科の一種	♂y2, y9
----------	---------

アシナガグモ科

ササキグモ	♀1
<i>Leucauge</i> sp.	y1
<i>Tetragnatha</i> sp.	y1

コガネグモ科

ヤンバルオニグモ	y2
<i>Cyclosa</i> sp.	y8
<i>Neoscona</i> sp.	y1

コモリグモ科	
<i>Pirata</i> sp.	y14
ササグモ科	
シマササグモ	y2
シボグモ科	
シボグモ	y3
ハタケグモ科	
<i>Hahnia</i> sp.	♀2
ハグモ科	
<i>Lathys</i> sp.	♀1
ハウシグモ科	
アマミハウシグモ	♂1
カニグモ科	
アマミセマルトラフカニグモ	y3
イボカニグモ	y2
ダイダイエビスグモ	y5
ホシズナワカバグモ	y2
カニグモ科の一種	y5
ハエトリグモ科	
<i>Mendoza</i> sp.	y6
<i>Myrmarachne</i> sp.	y1
<i>Rhene</i> sp.	y4
山田橋 (大字川内)	
タマゴグモ科	
キハネグモ	♀2
センショウグモ科	
リュウキュウセンショウグモ	♀1
ヒメグモ科	
クロホシミジングモ	♂2
ヒシガタグモ	y1
ムナボシヒメグモ	♂y1
ヤエヤマヒシガタグモ	♂2, ♀1, y1
ヒメグモ科の一種	y1
カラカラグモ科	
カラカラグモ科の一種	♂y1, y4

サラグモ科

ノコギリヒザグモ	♂2, ♀1, y1
ヘリジロサラグモ	♂1
ムネグロサラグモ?	♂1, ♀2, y1
<i>Hypselistes</i> sp.	♀2

アシナガグモ科

アシナガグモ	y1
ササキグモ	♂1, y1
タニカワアシナガグモ	♂y2, y1
<i>Leucauge</i> sp.	y46
<i>Tetragnatha</i> sp.	y1

コガネグモ科

チュラオニグモ	y1
トガリオニグモ	y1
ヤンバルオニグモ	y6
リュウキュウオニグモ	♂1, ♀1, y1
<i>Cyclosa</i> sp.	y4
コガネグモ科の一種	♂y1

コモリグモ科

タテスジハリゲコモリグモ	♂1, y2
ナガズキンコモリグモ	♂1
<i>Pirata</i> sp.	♂y1, y4

キシダグモ科

キシダグモ科の一種	y6
-----------	----

ササグモ科

シマササグモ	y10
--------	-----

シボグモ科

シボグモ	y2
------	----

ハタケグモ科

<i>Hahnina</i> sp.	♀1
--------------------	----

ハグモ科

<i>Lathys</i> sp.	♀1
-------------------	----

コマチグモ科

<i>Chiracanthium</i> sp.	y2
--------------------------	----

フクログモ科

フクログモ科の一種	y4
-----------	----

カニグモ科

アズチグモ	y1
イボカニグモ	y1
コハナグモ	♂1, ♂y2, y2
ダイダイエビスグモ	y4
ドウナガカニグモ	y3

ハエトリグモ科

オオクマアメイロハエトリ	♂1
<i>Mendoza</i> sp.	y3
<i>Phintella</i> sp.	♀5, y9
<i>Rhene</i> sp.	y2
ハエトリグモ科の一種	y4

砂防ダム (大字川内)

センショウグモ科

リュウキュウセンショウグモ	♂1, ♀1
---------------	--------

ウズグモ科

マネキグモ	♂y1, y1
-------	---------

ヒメグモ科

アシプトヒメグモ	♂1
カニミジグモ	♀1
クロホシミジグモ	y1
ヒシガタグモ	y2
ヤエヤマヒシガタグモ	♂y1
ヤンバルヒメグモ	♂1, y2
ヒメグモ科の一種	y1

コツブグモ科

<i>Mysmenella</i> sp.	♂1
-----------------------	----

サラグモ科

ヘリジロサラグモ	y5
<i>Bathyphantes</i> sp.	♀1, y3
<i>Hylyphantes</i> sp.	♂1
<i>Hypselistes</i> sp.	♀6, y3
<i>Tmeticus</i> sp.	♂4, ♂y1, y1
サラグモ科の一種	♀1, ♂y2, y1

アシナガグモ科

タニカワアシナガグモ y1

Leucauge sp. y8

コガネグモ科

トガリオニグモ y1

コモリグモ科

イリオモテコモリグモ ♀1, y1

タテスジハリゲコモリグモ ♂9, ♀5

キシダグモ科

Dolomedes sp. y1

ササグモ科

シマササグモ y1

シボグモ科

シボグモ y2

ハグモ科

Lathys sp. ♀6

コマチグモ科

Chiracanthium sp. y2

フクログモ科

Clubiona sp. y1

ネコグモ科

オトヒメグモ ♀1

Phrurolithus sp. y1

ワシグモ科

ワシグモ科の一種 y4

カニグモ科

イボカニグモ y4

クマダハナグモ ♂1

コキハダカニグモ y5

コハナグモ y1

ミナミタルグモ y2

Thomisus sp. y1

ハエトリグモ科

オオクマアメイロハエトリ ♀1

ノジマネオンハエトリ ♀2

ミナミカラスハエトリ ♀1

<i>Mendoza</i> sp.	y1
<i>Phintella</i> sp.	♂4, ♀8, y14
<i>Rhene</i> sp.	y3
ハエトリグモ科の一種	y7
砂防ダム奥 (大字川内)	
ヒメグモ科	
クロホシミジングモ	♀1
トガリクサチヒメグモ	♂2, ♀1, y1
<i>Ariamnes</i> sp.	♂y1
<i>Rhomphaea</i> sp.	y1
コツブグモ科	
<i>Mysmenella</i> sp.	y1
サラグモ科	
ヘリジロサラグモ	♂y1, y7
<i>Saitonia</i> sp.	♀1
サラグモ科の一種	♀2, y2
アシナガグモ科	
アシナガグモ	y1
キヌアシナガグモ	y1
<i>Leucauge</i> sp.	y41
コガネグモ科	
<i>Araneus</i> sp.	y1
<i>Argiope</i> sp.	y1
<i>Cyclosa</i> sp.	y21
コモリグモ科	
ナガズキンコモリグモ	♂2, y7
コモリグモ科の一種	y1
キシダグモ科	
キシダグモ科の一種	y14
ササグモ科	
ササグモ	y1
シマササグモ	y19
ハタケグモ科	
<i>Hahnia</i> sp.	♀5

フクログモ科

Clubiona sp. y1

ネコグモ科

オトヒメグモ ♀1

カニグモ科

コハナグモ y1

ドウナガカニグモ y1

Thomisus sp. ♂y1, y1

カニグモ科の一種 y2

ハエトリグモ科

ヤガタアリグモ ♀1

ヤサアリグモ ♂1, y3

Mendoza sp. y2

Myrmarachne sp. y1

Phintella sp. ♀4, y5

Rhene sp. y1

Synagelides sp. y1

ハエトリグモ科の一種 y2

林道 (大字東仲間)

ヒメグモ科

リュウキュウツクネグモ ♀1

カラカラグモ科

カラカラグモ科の一種 ♂1

サラグモ科

ヘリジロサラグモ y1

ヤガスリサラグモ ♂1, ♂y1

サラグモ科の一種 ♀1

アシナガグモ科

アシナガグモ y1

Leucauge sp. ♂y4, y44

コガネグモ科

ヘリジロオニグモ ♀2

ミナミノシマゴミグモ ♀1, y1

リュウキュウオニグモ y1

Araneus sp. y1

<i>Cyclosa</i> sp.	y4
<i>Neoscona</i> sp.	y1
コガネグモ科の一種	y2
コモリグモ科	
タテスジハリゲコモリグモ	♂3, ♀1, y3
ナガズキンコモリグモ	♂2, ♀5
キシダグモ科	
キシダグモ科の一種	y7
ササグモ科	
ササグモ	y7
シマササグモ	y4
シボグモ科	
シボグモ	y2
コマチグモ科	
<i>Chiracanthium</i> sp.	y1
エビグモ科	
エビグモ科の一種	♂y1
カニグモ科	
イボカニグモ	♂1
コキハダカニグモ	y1
コハナグモ	♂1
ホシズナワカバグモ	y4
<i>Thomisus</i> sp.	y1
ハエトリグモ科	
<i>Mendoza</i> sp.	y1
<i>Phintella</i> sp.	♂2, ♀1, y6
<i>Rhene</i> sp.	♂3, y2
ハエトリグモ科の一種	♀1, ♂y1, y1
林道奥 (大字東仲間)	
タマゴグモ科	
キハネグモ?	y1
<i>Ischnothyreus</i> sp.	♀2
ヒメグモ科	
クロホシミジングモ	♀1
ヒメグモ科の一種	♂y1, y1

サラグモ科

- ヘリジロサラグモ y1
サラグモ科の一種 ♀1

アシナガグモ科

- ササキグモ ♂1
Leucauge sp. ♂y2, y110

コガネグモ科

- ツメナガオニグモ ♂1
ヤンバルオニグモ y2
リュウキュウオニグモ y1
Cyclosa sp. y7
コガネグモ科の一種 y1

コモリグモ科

- カガリビコモリグモ y2
タテスジハリゲコモリグモ ♂1
Pirata sp. y16

キシダグモ科

- キシダグモ科の一種 y10

ササグモ科

- シマササグモ y10

シボグモ科

- シボグモ y11

ハタケグモ科

- Hahnina* sp. ♀2

コマチグモ科

- Chiracanthium* sp. y1

フクログモ科

- Clubiona* sp. y1

ネコグモ科

- エラブウラシマグモ ♂1

ワシグモ科

- ワシグモ科の一種 y1

アシダカグモ科

- アシダカグモ科の一種 y1

カニグモ科

- イボカニグモ ♂1

クマダハナグモ	y1
コキハダカニグモ	y1
コハナグモ	y1
ダイダイエビスグモ	y7
ホシズナワカバグモ	y1
ミナミタルグモ	y1
ハエトリグモ科	
カノウハエトリ?	y2
ヤサアリグモ	♀1, ♂y1
<i>Mendoza</i> sp.	y1
<i>Phintella</i> sp.	♂5, ♀5, y9
<i>Rhene</i> sp.	♂5, ♀1, y3
オオクマアメイロハエトリ	♀2
ハエトリグモ科の一種	♂y1, y2

注目すべき種

1) ヤンバルヒメグモ

川内地区の砂防ダム付近で、ヒメグモ科のクモ (♂1頭, 幼体2頭) をビーティングで採集した (図



図1 ヤンバルヒメグモのオス.

1)。このクモは吉田哉さんによって新種とされた。このクモはすでに谷川明男さんによって沖縄島のヤンバルで採集されていたので、吉田哉さんは、和名をヤンバルヒメグモと、学名を *Theridion makotoi* と命名された。種小名の *makotoi* は私に献名されたもので

ある (小野ら, 2009)。これは私に献名された初めてのクモで、採集者としてはとてもうれしいことであった。

2) ツメナガオニグモ

東仲間地区の林道の奥で第1脚の腿節に3本の鋭い棘を持つオニグモ類のオス

を採集した (図2)。これは、京大の小池直樹さんがその前年に奄美で採集し、谷川さんによってツメナガオニグモのオスとして記載されたものであった



図2 ツメナガオニグモのオス.



図3 ノジマネオンハエトリのメス.

(Tanikawa, 2007)。ツメナガオニグモは Thorell によって 1890 年にメスのみで記載された (Tanikawa, 2007) もので、オスは私が今回採集したもので2頭目であるという。

3) ノジマネオンハエトリ

川内地区の砂防ダム付近で、ネオンハエトリの一種と思われるメス2頭を採集した。池田博明さんによれば、これはノジマネオンハエトリのメス (図3) だという。この種は、岡山県産のオスのみで池田さんによって記載された (Ikeda, 1995) もので、メスはまだ記載されていない。以下に示す池田さんのホームページによれば、メスは今のところ、私が今回採集したものを除けば、三重県でしか

採集されていない。三重県産のものは白っぽくて大きく、奄美大島産のものは黒っぽくて小さい。

<http://www.ne.jp/asahi/jumpingspider/studycenter/japanneon.htm#neon>

奄美大島新記録のクモ類

以下の13種の生息が奄美大島ではじめて確認された：

ヘリジロオニグモ (コガネグモ科), ノコギリヒザグモ・ヘリジロサラグモ (サラグモ科), リュウキュウセンショウグモ (センショウグモ科), キハネグモ (タマゴグモ科), ノジマネオンハエトリ・ミナミカラスハエトリ・ヤガタアリグモ (ハエトリグモ科), ヤンバルヒメグモ・カニミジグモ・クロホシミジグモ・トガ

リクサチヒメグモ・ヤエヤマヒシガタグモ (ヒメグモ科), カガリビコモリグモ (コモリグモ科)

未記載種と思われるもの

このほかに、未記載種と思われる種もかなりの数に上った。

タマゴグモ科

Ischnothyreus sp. (ダニグモの一種) のメスが採集されている。

コツブグモ科

Mysmenella sp. (コツブグモの一種) の雌雄が採集されている。

カラカラグモ科

Theridiosoma sp. (カラカラグモの一種) のオスが採集されている。

サラグモ科

Bathyphantes sp. (テナガグモの一種) のメス, *Hylyphantes* sp. (クロナンキングモの一種) のオス, *Hypselistes* sp. (ツノタテグモの一種のメス, *Saitonia* sp. (ズブトヌカグモの一種) のメス, *Tmeticus* sp. (ヌカグモの一種) のオスが採集されており, その他にも所属不明の種がいくつかあるようである。

ハタケグモ科

Hahnia sp. (ハタケグモの一種) のメスが採集されている。

ハグモ科

Lathys sp. (カレハグモの一種) のメス。シマカレハグモと近縁の種と思われる。

コマチグモ科

Chiracanthium sp. (コマチグモの一種) の雌雄が採集されている。

ハエトリグモ科

Phintella sp. (ヤマトハエトリグモの一種) の雌雄と *Rhene* sp. (カラスハエトリの一種) の雌雄が採集されている。前者はマガネアサヒハエトリに近縁と思われる。このほかにも所属不明の種がある。

引用文献

小野展嗣編著. 2009. 日本産クモ類. 733 p. 東海大学出版会. 神奈川.

Tanikawa, A. 2007. The first description of a male of *Cnodalia halpax* (Araneae: Araneidae). *Acta arachnol.*, **56**(2): 71-72.

Ikeda, H. 1995. A revisional study of the Japanese salticid spiders of the genus *Neon* Simon (Araneae: Salticidae). *Acta arachnol.*, **44**(1): 27-42.

長野県西駒ヶ岳のクモ

西本 裕・上田 秀義・平山 征彦

竹筒に営巣するハチの調査をしていると、回収した竹筒内にクモが入っていることがある。これらのクモを、京都大学大学院生の小池直樹氏に同定していただいた。その結果をここに報告する。

採集場所は信州大学西駒ヶ岳演習林(恵那市), および木曾営林署(日義村)である。地点番号, 標高, 緯度・経度および植生を以下に示す。

地点 A 標高 1750m 北緯 35° 49'13" 東経 137° 50'39" コメツガ林(恵那市)

地点 B 標高 2140m 北緯 35° 49'13" 東経 137° 50'05" コメツガ林(恵那市)

地点 C 標高 2350m 北緯 35° 48'59" 東経 137° 49'48" コメツガ・ダケカンバ混交林 (日義村)

地点 D 標高 2450m 北緯 35° 48'53" 東経 137° 49'41" コメツガ・ダケカンバ混交林 (日義村)

地点 E 標高 2510m 北緯 35° 48'50" 東経 137° 49'35" コメツガ・ダケカンバ混交林 (日義村)

F, M はそれぞれ雌及び雄の成体, 数字は採集した個体数, 地点記号は上記採集地点をそれぞれ表す。

竹筒を 2009 年 5 月 30 日に設置し, 同年 9 月 26 日に回収した。竹筒は樹幹の高さ 1.5m に, 簾状に編んだ内径 (3-6 mm, 6-9 mm, 9-12 mm,) の異なる 3 種類を 5 セット, 合計 15 本を 1 トラップとして, 5 トラップを 1 地点に設置した。20m 四方の各頂点と中央に 1 つ, 節のある方をやや上にして雨水が溜まらないように配慮した。

クモリスト

- 1 フクログモ科 ヤマトフクログモ *Clubiona japonica* 地点 A F6 M3
- 2 フクログモ科 フクログモ属の 1 種 *Clubiona* sp. F28 M2 (地点 A F6 M1, 地点 B F11, 地点 C F3, 地点 D F1, 地点 E F7 M1)
- 3 ヤチグモ科 ヤマヤチグモ属の 1 種 *Tegecoelotes* sp. F9 M2 (地点 A F3, 地点 B F3 M1, 地点 C F1 M1, 地点 E F2)

下の 2 種は未記載種あるいは日本初記録種の可能性がある。詳細が判明すれば

追って報告する。

クモの同定と投稿文章のまとめをしていただいた京都大学大学院生の小池直樹氏と、発表の機会をくださった立命館大学名誉教授の吉田真氏にお礼を申し上げます。また、採集許可を頂いた信州大学農学部附属 AFC, 木曾森林管理署の関係者の方々にお礼を申し上げます。

京都市でマルゴミグモの生息を確認

平松 毅久

京都市北区にある筆者の実家の庭でマルゴミグモ *Cyclosa vallata* Keyserling, 1886 の生息を確認したので報告する。アカマツとツバキの枝間に 4 頭, マサキとドウダンツツジの間に 1 頭の計 5 頭で, いずれも♀成体で網に卵のうをゴミと共にぶら下げていた。1 頭を採集し本種であることを確認した。網は地上 1.5~2m の高さで, やや傾いた水平円網の中央上面に占座していた。最も低い位置の網のサイズと網糸の本数を測定したので参考までに記すと, タテ径 17cm, ヨコ径 15cm, タテ糸数 54 本, ヨコ糸数 35 本, ワク糸 3 本であった。

本種は元々海岸地域に多く生息 (新海栄一, 2006) していたが, 愛知県の葦毛湿原 (谷川, 1994) で見つかったのを皮切りに 2005 年に石川県で海岸から 9.5 km, 3.3 km 離れた地点 (徳本, 2006), 2008 年には東京都千代田区の国会議事堂周辺 (新海, 2008), 2009 年には東京都世田谷区 (笹岡, 2010) と内陸での発見が相次いでいると同時に急激な北上傾向を示している (新海, 2006) ことが指摘されている。ちなみに昨年まで実家で本種を確認したことはなかったことを付け加える。今後各地で生息状況の把握が望まれる。

参考文献

- 笹岡文雄 2010. 東京・世田谷区で採れたマルゴミグモ. *Kishidaia*, 97:35.
新海栄一 2006. ネイチャーガイド 日本のクモ. 文一総合出版. 335pp.
新海栄一 2008. 国会議事堂前に出現した熱帯性のクモについて. *Acta arachnologica*, 57(2): 120.
谷川明男 1994. 内陸のマルゴミグモ. *Kishidaia*, 66 : 55.
徳本 洋 2006. 石川県でのマルゴミグモの分布ならびに好適環境特性. *Kishidaia*, 89 : 43-48.

オーストラリア・ブリスベン訪問記
My flying visit to Brisbane in Australia.

関根幹夫

Mikio SEKINE

I visited Brisbane in Australia in the summer of 2011. I took the year ten students on a study-visit to Australia. As I was free on Saturday and Sunday, I took pictures of spiders of Brisbane. I also visited Dr. Robert J. Raven, the senior curator at the Queensland Museum. "In Australia, spider fighting is not known", said Dr. Raven. "I know of no such custom in Australia. The aboriginal tribes are frightened of spiders, especially *Nephila* spiders." He also told me helpful topics about spiders of Australia, especially about redback spider *Latrodectus hasselti* which Japanese people know well, and about venomous funnel-web spiders, *Hadronyche infensa* and *H. formidabilis*.

高校生たちの語学研修の引率でオーストラリアのブリスベンを訪れた。ホームステイしながら現地の高校で授業を受け、交流するというプログラムである。僕は、冬のオーストラリアに避暑に行ったようなもの…。植生は沖縄に似てブーゲンビリアの花やジャカラランダの花が綺麗だ。昼間の陽射しは強いが、湿度が少ないので、ガジュマルやユーカリの木陰に入れば心地よい。クモを探す夜明け前と夜間は、さすがに 10℃以下となるが、震え上がるほどでもない。そう、僕の目的の大半はここでもクモである。クモの網の絵柄のバンダナをして、"I am a Japanese Spiderman" と名乗り、オーストラリアの生徒たちや先生方と交流してきた、という訳である。

さて、冬ということもあって、クモの数と種類は多くはなかった。日本で見られるクロガケジグモ *Badumna insignis* と近縁の *Badumna longinqua*, 日本のジョロウグモとよく似た種 *Nephila* sp., スズミグモ *Cyrtophora moluccensis*, シロカネグモの仲間 *Leucauge* spp. オーストラリアには、このシロカネグモの仲間は 2 種いるらしい。また、ブリスベン郊外で乗馬体験をした際に野外トイレで撮影したユウレイグモ科のクモ。これは *Pholcus phalangoides* ではなく *Artema atlanta* かもしれない、と Raven 博士に教えて頂いた。そう…、クイーンズランド博物館の Robert J. Raven 博士とお逢いすることが出来たのが何より嬉しかった。"Let's talk about spiders in easy English" と僕は話をきりだし、博士とカタコトでの会話をしてきた。博物館には大きなセアカゴケグモの展示があり、博士の研究室で猛毒のシドニージョウゴグモを見せてもらった。彼によれ

ば、オーストラリアに「クモ相撲」は、ないとのこと…、またアボリジニは、クモを嫌う（特に、ジョウロウグモを忌避する）とのことであった。「クモ相撲」の研究を頑張っね、と言って頂いたオーストラリア訪問であった。

参考文献

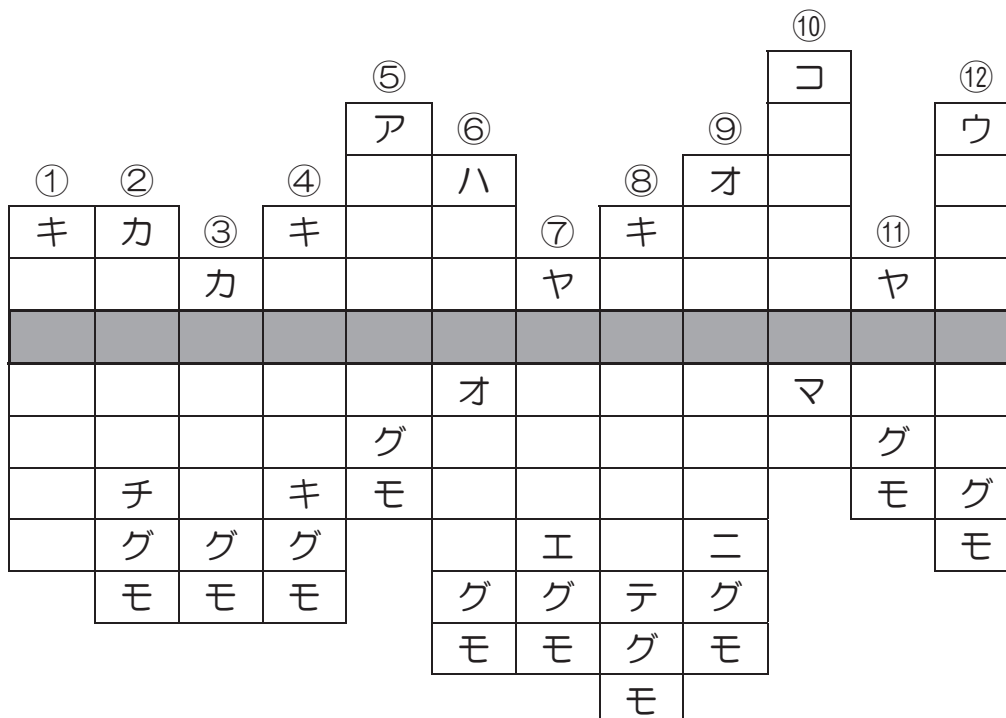
関根幹夫 2010. オーストラリアの旅.

<http://www.cyberoz.net/city/sekine/AZ01.htm>

クモの名前クイズ

タテ①から⑫までに一つずつクモの名前が入ります。枠をすべて埋めてください。完成するとヨコ黒枠が一つのクモの名前になります。

できない人は 21 ページのヒントを見ながら、もう一度やってみましょう。解答は 29 ページにあります。



長崎・【西海市】檜浦郷訪問記

A travel sketch on Kashinourago, 【Saikai city】 in Nagasaki Prefecture.

関根 幹夫

Mikio SEKINE

On a drizzly Father's Day, Kasinourago, a small town on the sea, shows us gorgeous harmony with the blue sea and green forests. It will be most beautiful at sunset. Why did I visit this town? Needless to say, spider fighting is held at Kashinourago. The 28th spider fighting competition at Kashinourago was scheduled on June 20, 2010, but the games were called off on account of shortage of *Kogane*-spiders, or *Argiope amoena*. It was really regrettable. I managed to find a person who is well known in the spider-fighting community.

“We have been having unseasonable weather for the past few months”, said Mr. Miyamori, the treasurer of the Kashinourago Spider-Fighting Club. He said that spiders are too small to fight this year. I visited Mr. Miyamori, and he kindly told me a helpful story. There is a strong resemblance between the spider fighting of Kashinourago and the spider fighting of Kajiki, Kagoshima Prefecture, which is the most famous spider fighting in Japan. But there is a slight difference between the Kajiki's style of spider fighting and the Kasinourago's style of spider fighting.

At Kajiki: a slender stick on which spiders are put is fixed on the vertical post, in a horizontal position. On the other hand, at Kashinourago: a slender stick is held by the referee's hand on a nearly horizontal plane.

Perhaps, the Kashinourago's style of spider fighting is the earlier type, in other words, it is still in its embryonic stage.

Next year, let's hope the weather gets back to seasonal averages.

小雨けむる海辺の鄙は、緑の森が青い海との見事なハーモニーを奏でていた。西の海に夕陽がとけ込めばそれはきっと素晴らしい景色だろうと、僕は想像をたくましくした。2010年6月20日、「第28回檜浦山こぶ選手権大会」が開催されると聞いて、西海市役所のすぐ傍らの檜浦公民館を訪れた。山こぶは、コガネグ

モの方言。二匹のコガネグモを横棒の土俵上で闘わせる「クモ相撲」が行われるのである。

ところが今年はクモが小さく数も少ないことから、中止になったとのこと。檜浦公民館は鍵がかかり、誰もいない。♪は一るばる来たぜ長崎…、ここで諦めてしまうのはあまりに残念。日曜日なのに開いていた（よかった！）西海市役所の職員の方に伺い、「檜浦郷山こぶ愛好会」にコンタクトをとった。突然の訪問にも関わらず、1983年の第2回大会以来会計役を務めておられる宮守公治氏からの快諾を得て、厚かましくも宮守氏のお宅にお邪魔をした。宮守氏に拠れば、この地の「クモ相撲」は、子どもの頃に遊んだクモの闘いを6月の父の日の親睦行事にしようと企画したのが始まりとの事。



図1 トーナメント対戦表を広げる宮守公治氏

熱心な人は、2週間程前からクモを採集してきて育てる。家の中で育てる人もいれば、庭に放しておく人もいる。しかし、餌がないとクモは糸を出してそれを伝い、どこかに行ってしまうという。なお、クモを持ってこない手ぶらの大会参加者もいるが、このような人にはクモを渡す。その日にならないと参加人数が判らないので、予め参加人数の変動に対応できるトーナメント表を作っておく（図1）。対戦相手はくじ引きで決める。トーナメント戦である。運営の実務を細やかに進めておられる宮守氏のお人柄が覗えた。勝負は、棒から落ちたら負け、牽引糸を切られたら負け、噛みつかれたら負けである。殺すところまではやらない。大会が済んだら山へ持って行きクモを放す。「山こぶ選手権大会」は、公民館の屋内で行う。クモが落ちてもクモが怪我をしないように畳に座布団を置く。この上

方で行司が手にして持つ横棒上でクモを闘わせる（図 2）。この様を，車座になって皆は観戦する。鹿児島・加治木のように，横棒を縦棒の支柱に取り付けることはない。おそらく，手で持った横棒上でクモを闘わせる檜浦郷の方法は，横棒を



図 2 行事の持つ横棒の上で闘うコガネグモ。
2007 年の新聞記事。宮守氏提供。

縦棒支柱に取り付けてクモを闘わせる加治木などに見られる方法よりも古いやり方と考えられるだろう。2002 年の加治木の「くも合戦全国大会」に出場した時は、「山こぶ選手権大会」の日程を変更した。この時，合併して西海市となる前の大瀬戸町から全国大会出場の補助金が出た。また，加治木の「くも合戦全国大会」に前後して，加治木のくも合戦保存会が檜浦郷を訪問した事もあったが，これを除いては，鹿児島・加治木との交流はなかったとの事である。檜浦郷では加治木との交流がなかったことから，手で

持った横棒上でクモを闘わせるというやり方が檜浦郷に残っていると考えるのが妥当なように思われる。

宮守氏は，島原の出身だが，子どもの頃同じようなやり方で遊んだという。おとなは行わず，子どもたちの遊びであった。賭けて行うことはなかったとの事。「山こぶ選手権大会」は，予めクモを採集し育てている熱心な人がたいてい好成績をあげる。僕の繰り出す質問に宮守氏は丁寧に答えてくださり，奥様は，第 2 回大会の礼状葉書・大会の様子を記録した写真やトーナメント表・新聞に載った



図3 木の枝にたからせて運び込まれた山こぶ（コガネグモ）と、
檜浦公民館の屋内で行司を囲み山こぶの闘いに興じる人々。
2002年の写真。宮守氏提供。

記事の切り抜きなどを探してくださった（図1～3）。感激である。クモと遊ぶ心を持った人は、優しい人たちばかりだ！来年の良い天候と、「山こぶ選手権大会」が末永く継承されることを祈りながら、嬉しい気持ち一杯で檜浦郷を後に、レンタカーのハンドルを握った僕だった。

クモの名前クイズのヒント

- | | |
|----------|----------|
| ①ハエトリグモ科 | ⑦コガネグモ科 |
| ②コマチグモ科 | ⑧トタテグモ科 |
| ③ヒメグモ科 | ⑨カニグモ科 |
| ④コガネグモ科 | ⑩コガネグモ科 |
| ⑤サラグモ科 | ⑪カラカラグモ科 |
| ⑥ヒメグモ科 | ⑫アシナガグモ科 |

クモの夢

船曳 和代

ラジオを聞き流しながら本を読んでいると、「クモの夢を見た」という話が耳に飛び込んできた。私はクモに興味があるので、ラジオを聞いていてもテレビを観ていても、新聞や本を読んでも、「クモ」という言葉には敏感に反応してしまう。すぐに本から目を離して耳を傾けた。

番組パーソナリティの田中さなえさんは、なんでも昨夜、黄色いクモが口に飛び込んでくる夢を見たらしい。大のクモ嫌いである彼女が、よりもよってこんなとんでもない夢を見たのである。何か特別な意味があるのかもしれない。そう思って「クモの夢占い」をインターネットで検索してみた。すると吉凶とり混ぜたくさんのものがヒットしたとのことで、いくつか紹介していた。

私もクモの夢はよく見る。私の夢にはいくつか決まったパターンがある。

一つめは、今までに見たこともない模様の網を見つけて、喜び勇んで採集しようとする夢だ。しかし、道具を取りに行っているうちに網がなくなってしまうたり、途中で網を頭や手に引っかけて破ってしまったりして、いつも失敗に終わる。

二つめは、奇妙な形や色の、いわゆる新種のクモを見つけた、という夢である。これも管瓶を探して、あたふたとしているうちにどこかに消えてしまったり、採集したはずなのにあとで取り出そうとすると、ビンの蓋が開いていたりして、常に逃げられてしまう。

この二つが合体した夢もある。奇妙な網があるので、この網を張ったクモはきっと新種に違いない、と思ってあちこち探しているうちに網が破れ、クモも見つからなくて、両方失うという悲惨な夢だ。

まあ私の夢は、「美しい模様の網を採集したい、新種のクモを採集したい」という私の願望がストレートに現れた夢で、世の中のたいがいの人には無縁の内容だ。

では世の中の人には、クモのどんな夢を見ているのだろうか。インターネットでいくつか拾ってみた。

まずは、布団をしまおうとして押し入れを開けたら、奥半分にクモの巣が、びっしりとカーテン状に張られていて、ギャーと言っている夢。その巣も丸い網でなく、玉のれんのようなもので、間には大小何匹かのクモがいたらしい。見た本人は夢を見ている間は勿論、覚めてからも気持ちが悪かったようだ。私なら「今までに見たことのない網だ、採集しなくては」と興奮し、嬉々として壊中電灯や網採集道具を取りに行ったに違いない。

次に、緑、赤、黒、灰色と、白色が少し混じった、手のひら以上の大きなクモ

が何匹か道を這っていて、気持ち悪くて急いで車に乗り込んで発車させた。しばらくして見ると、クモはドアノブのところにはさまれて死んでいた夢。これはまさに“新種のクモ”だ。大きいので私も少し怖いけど、“新種”の誘惑には勝てない。道に這っているのを見つけた段階で、採集のために追いかけてまわしていただく。

また四十センチもあるような、黒い巨大なクモの肉を食べた夢もある。まずかったらしいが、こんな大きなクモは今まで見つからない。私なら食べるなんでもったいないことはしない。

その他にも、お腹の上をクモがゴソゴソ動く夢や、腕中にクモが纏いつく夢、寝室で卵を産みつけながら噛みついてくる黒いクモの夢など、いろいろあった。どの夢も見た本人は、“ぞっとする、怖い、嫌だ、気味が悪い、何かの暗示かもしれない不安である、不快だ、”というように、クモに対してマイナスのイメージを強く持っているようだ。

夢判断によれば、クモの夢を見るというのは、そんなに悪いことばかりではなさそうだ。良いものと悪いものをインターネットから一つずつ拾ってみた。

まずは、信じられないくらい良いことばかり書かれているもの。

「クモは不気味だと思われる方がいるかもしれませんが、実はクモの夢は幸運を呼ぶラッキーなものなんですよ。クモを殺してはいけないという言い伝えがある地域もあるくらいです。クモの夢はあなたの恋愛や仕事の調子が上昇していることの現れです。もしクモを殺した夢を見た時は、あなたの調子が良過ぎるために、誰かから反感を買っている可能性があるということです。注意しましょう。クモが巣を作っている夢を見た場合は、あなたの世界が広がっていく暗示です。目標を達成させ、新しい自分の財産も増えていく可能性が高いと見て良いでしょう」

<http://tobalabel.sakura.ne.jp/yumeuranai5.html>

そして極端に悪いことだらけのもの。

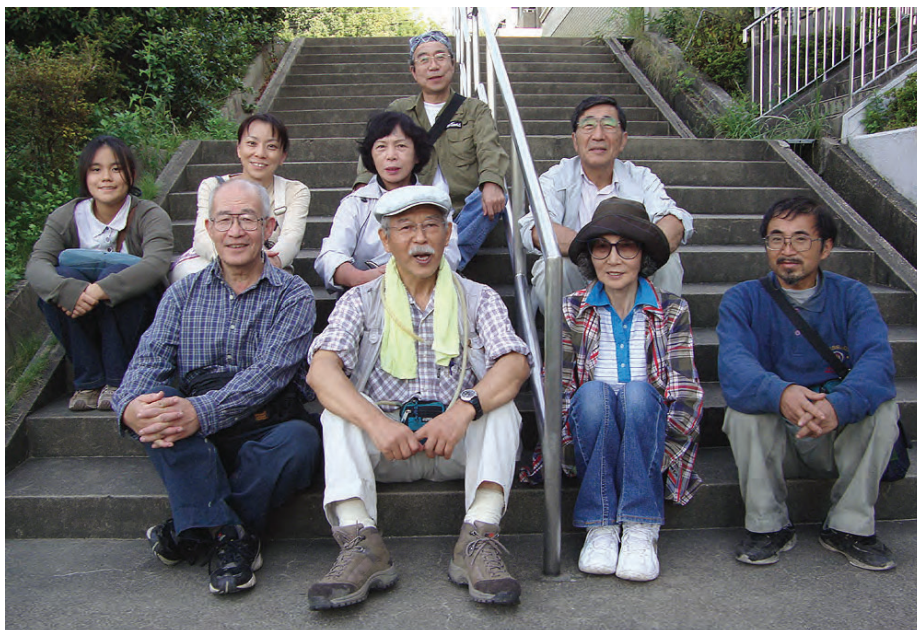
「心が悪い波動ばかり受け止めているようです。うまくやっているつもりでも、お金や大切なものをなくしたり、大事な会議でミスをしたり、言ってはならないことを言ってしまったり……。結局は自分で自分の首を絞めて、窮地に立たされてしまうのです。クモの夢は、もがいてももがいても逃れることのできない運命を告げているのです」

<http://www.pastel-color.com/paradise/dreamf/ikimono/mushi/03.html>

どちらを信じるかは個人の勝手だが、どうせなら良いものを信じている方が楽しい。冒頭の田中さなえさんの“黄色いクモが口に飛び込んでくる夢”を私が占うと、「黄色いクモは幸運の象徴です。それが向こうから飛び込んできたのです。まもなく思いがけない喜び事があるでしょう。そして素晴らしい未来が開けること、間違いありません」

関西クモ研究会 採集会の記録
2010年9月26日 奈良県生駒市乙田町

参加者：加村隆英，沢田武子，新垣あずみ，新垣雅美，関根幹夫，田中穂積，西川喜朗，西本 裕，船曳和代，山田廣士（10名）；乙田町休耕田クラブの皆さん（5名）。



確認できたクモ類 [科の配列は，小野（2009）に準拠.]

今回の調査地の大部分は奈良県生駒市乙田町であるが，一部に東山町と萩の台を含む。

新海ら（2010）に基づいて，ニシキオニグモ，タイリクアリグモ，マミクロハエトリの3種を奈良県初記録と認めた。

ユウレイグモ科

ユウレイグモ（1♂幼体）

ガケジグモ科

クロガケジグモ（1個体目撃）[東山町]

ウズグモ科

マネキグモ（1幼体）

ヤチグモ科

ヤチグモ属の一種（2幼体）

タナグモ科

クサグモ (複数個体目撃)

コクサグモ (多数個体目撃)

キシダグモ科

イオウイロハシリグモ (1♀, 1♀幼体)

コモリグモ科

カイゾクコモリグモ属の一種 (1幼体)

ヒノマルコモリグモ (1♀)

ハリゲコモリグモ類の一種 (1幼体)

ウヅキコモリグモ (2幼体)

ササグモ科

ササグモ (5♀幼体)

センショウグモ科

センショウグモ (1♀幼体)

サラグモ科

ユノハマサラグモ (1♀幼体)

アシナガサラグモ (1♀)

ピモサラグモ科

アシヨレグモ (2♀幼体)

ヒメグモ科

セアカゴケグモ (2♀, 2♀幼体) [東山町]

カグヤヒメグモ (1♀及び卵囊)

ニホンヒメグモ (1♀及び出囊直後の子グモ) [萩の台]

チリイソウロウグモ (1♀及び卵囊)

オナガグモ (1幼体)

ジョロウグモ科

ジョロウグモ (成体多数目撃)

アシナガグモ科

キンヨウグモ (1♀)

オオシロカネグモ (3♀)

チュウガタシロカネグモ (3♀)

アシナガグモ属の一種 (1幼体)

コガネグモ科

コガタコガネグモ (1♀)

ナガコガネグモ (成体多数目撃)

オオトリノフンダマシ (1♀及び卵囊 4個)



図 1. ニシキオニグモ



図 2. タイリクアリグモ

- ギンメッキゴミグモ (1♀)
- ワキグロサツマノミダマシ (1♀)
- コガネグモダマシ (1♀幼体)
- ニシキオニグモ (1♀) [奈良県初記録] (図 1)
- トガリオニグモ (1♂幼体)

シボグモ科

シボグモ (2 幼体)

アシダカグモ科

コアシダカグモ? (1 幼体)

カニグモ科

ワカバグモ (1♀幼体) [萩の台]

アズチグモ (1♀)

フクログモ科

フクログモ属の一種 (1♀)

ウエムラグモ科

イタチグモ (2♀幼体)

ネコグモ科

コムラウラシマグモ (4♂)

ハエトリグモ科

タイリクアリグモ (1♂) [奈良県初記録] (図 2)

アオオビハエトリ (2♀幼体, 1♂幼体, 1 幼体)

メスジロハエトリ (1 幼体)

マミクロハエトリ (1♂) [奈良県初記録]

ヤハズハエトリ (2♂)

備考：2009 年の採集記録（本誌 第 43 号掲載）におけるクロガケジグモとセアカゴケグモの採集地は、今回と同様に奈良県生駒市東山町である。

文献

小野展嗣 編 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会.

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生 2010. CD 日本のクモ Ver. 2010.

(文責, 写真: 加村隆英)

関西クモ研究会 2010 年度例会の記録

2010 年 12 月 19 日（日）に四天王寺高等学校（大阪市天王寺区）で 2010 年度の例会が開催された。

役員会

例会に先立って、役員会が開かれた。出席者：田中穂積（会長）、山野忠清（庶務）、加村隆英（会計）、吉田真（編集）、西川喜朗・船曳和代（顧問）、関根幹夫（会計監査）。

以下の事項が審議、報告された。

(1) 次期（2011・2012 年度）の役員候補

会長：田中穂積、庶務：山野忠清、会計：吉田真、編集：加村隆英、顧問：西川喜朗・船曳和代、会計監査：関根幹夫。

(2) 2011 年度の行事予定

・採集会：2011 年 5 月 22 日（日）および 2011 年 9 月 25 日（日）、いずれも場所は、尼崎市都市緑化植物園。なお、一般の参加も募る予定。

・例会：2011 年 12 月 18 日（日）、場所は未定。

なお、採集会や例会の開催日程を早く知らせてほしいとの要望があることを受け、今後は、次年度の行事予定の概要を前年度中に全会員に連絡することとした。

(3) クモ同好会 4 団体合同合宿の件

東京クモ談話会、中部蜘蛛懇談会、三重クモ談話会、関西クモ研究会の 4 団体合同の合宿が、2012 年 7 月下旬に、岐阜県飛騨地方で開催される予定であることが報告された。

(3) 会員数報告

現在の会員数は 80 名。

例会

出席者：荒川真、池田幸二、上田祐補、加村隆英、黒田あき、座古禎三、沢田武子、清水裕行、須賀瑛文、関根幹夫、田中穂積、谷川明男、西川喜朗、船曳和代、村上協三、山田廣士、山野忠清、吉田真（計 18 名）。

講演発表

- (1) 関根幹夫：長崎・西海市大瀬戸町檜浦郷訪問記（山こぶ選手権大会）
- (2) 吉田真：奄美大島のクモ
- (3) 谷川明男・張替智行：わくわくどきどき
- (4) 谷川明男・張永浩・卓逸民：イコモサン復活！

(5) 清水裕行：兵庫県産クモ目録（簡易版）予報

なお、講演の合間に、役員会で審議、報告した内容を出席者に紹介し、了承を得た。また、出席者全員が近況を報告した。

名前クイズの解答

									コ		
				ア					ガ		ウ
				シ	ハ			オ	ネ		ロ
キ	カ		キ	ナ	ン		キ	オ	グ		コ
レ	バ	カ	ジ	ガ	ゲ	ヤ	シ	ヤ	モ	ヤ	ア
ワ	キ	グ	ロ	サ	ツ	マ	ノ	ミ	ダ	マ	シ
ハ	コ	ヤ	オ	ラ	オ	ト	ウ	イ	マ	ジ	ナ
エ	マ	ヒ	ヒ	グ	ス	カ	エ	ロ	シ	グ	ガ
ト	チ	メ	キ	モ	ナ	ナ	ト	カ		モ	グ
リ	グ	グ	グ		キ	エ	タ	ニ			モ
	モ	モ	モ		グ	グ	テ	グ			
					モ	モ	グ	モ			
							モ				

関西クモ研究会 2009 年度会計報告

収入： 2008 年度からの繰越金	217,383
会費過年度分入金	27,000
会費 2009 年度分入金	28,000
会費 2009 年度前受け分繰り入れ	40,000
バックナンバー売上	500

=====
合計 312,883

支出： くものいと No. 42, 43	用紙, 発送用封筒	5,412
同上	印刷費	58,910
同上	裁断料	4,000
同上	郵送費	29,120
文房具類		20,149
採集会・例会の案内 郵送費		17,500
その他の郵送費		1,520
2010 年度への繰り越し		176,272

=====
合計 312,883

会費前受け状況 2009 年度末における会費前受け分の合計は, 81,000 円である。その内訳は次のとおり。2010 年度分 46,000 円 ; 2011 年度分 16,000 円 ; 2012 年度分 7,000 円 ; 2013 年度分 5,000 円 ; 2014 年度分 3,000 円 ; 2015 年度分 2,000 円 ; 2016 年度分 1,000 円 ; 2017 年度 1,000 円。

上記のとおり, 報告します。

会計幹事 加村隆英

会計監査報告

2009 年度会計につきまして, 関係証票書類に基づき監査の結果, 適正に処理されていることを認めます。

2010 年 4 月 19 日 会計監査 関根幹夫

お詫び

前号の表紙が「くものいと 42号」となっておりました。これは、「くものいと 43号」の誤りです。申し訳ありませんでした。お詫びして訂正します。

編集後記

1年ぶりでくものいと 44号を発行できました。今回もまた、年1回の発行になってしまいました。早い段階から原稿を頂いていた執筆者の皆さんにはご迷惑をかけました。申し訳ありません。

編集には、加村さん、小池さん、原口さんにご協力いただきました。一人で編集しているときには気が付かないことも多いので、大変助かりました。有難うございました。

4月からは、くものいとの編集は加村さんが担当されることとなりました。私は替わりに、加村さんが担当されていた会計を担当します。私は、編集の責任者からは降りますが、編集部員としては残ってお手伝いをしようと思っています。くものいとの原稿を書くことが一番のお手伝いかもしれません。原稿が集まらないのは、編集担当者の最大の悩みですから。皆さんもぜひ、くものいとに投稿してください。お願いします。

京都と滋賀のクモ調べは、まだ端緒に付いたばかりです。昨年に比叡山で何度か採集したところでは、京都府や滋賀県の新記録種や未記載種と思われるクモがかなり採集されています。元気で採集できる体力があるうちに、頑張って採集に励みたいと思っています。